

# 競技上の注意・連絡

第70回近畿中学校卓球大会  
審判長 滝 明子

本大会は近畿中学校体育連盟卓球部規定の事項のほかは、現行の日本卓球ルールに基づいて行います。ただし、審判長の判断により容認される項目もあります。

## 1. マッチと大会使用球

1 ゲーム11ポイント制の5ゲームマッチで行います。大会使用球は、JTTA公認プラスチック球:40mm ホワイトのみとします。

## 2. 競技用服装

競技用服装は公認された半袖シャツ、ショーツまたはスカートとします。背中には選手名・府県名・学校名が明記されたゼッケンをつけてください。競技用シャツ、ショーツまたはスカートは、いずれもJTTAが公認したものでなければなりません。競技用服装の主たる色はボールの色と明らかに違う色でなければならないので、白色を基調とするものは着用できません。卓球の公認用具指定業者を除いて、在籍している中学校名以外の文字等がある競技用服装は着用できません。外に出すタイプを除いて、半袖シャツはショーツまたはスカートの中に入れて競技してください。なお団体戦に出場するチームの全競技者は、同じ服装で競技してください。ただし、ショーツまたはスカートは同色のものであれば、多少のデザインの違いは認めますが、事前に審判長まで申し出るようにしてください。

## 3. ラケット・ラバー

ラケットはJTTAが公認したもの、ラバーはITTFまたはJTTAが公認したものでなければなりません。ラバーは、ラケット本体の外周いっぱいまで、しかも外にはみ出ないように覆うものとします。JTTAが未公認のラケットを使用する場合は、「ラケット使用許可申請書」を審判長に提出し、許可を受けてから使用してください。

## 4. ラケットコントロール

指定された場所以外では、接着剤の使用はできません。

- (1) ラバーをラケット本体に貼る場合、揮発性有機溶剤を含んでいないものとしてJTTAが公認した**※接着剤のみ**とします。

※JTTA公認接着剤リスト（ホームページ記載の最新版）参照

- (2) 本大会において、無作為に選んだ競技者に対して、ラケット検査を実施する場合があります。

## 5. 競技方法

団体戦は、3チームずつのグループに分けた予選リーグと各グループの1位と2位のチームによる決勝トーナメントにより行います。いずれも3点先取法によって行います。原則として、2コート同時に使用しますが、競技委員長の判断により3～5コートを同時に使用することもあります。個人戦は、トーナメント方式により行います。さらに、ベスト16の選手による全国大会代表決定戦を行います。

## 6. 登録とベンチ入り

団体戦でベンチ入りできるのは、登録されている選手8名以内と監督1名・当該校の校長が認めたアドバイザー（コーチ）1名だけです。なお、個人戦においては監督・コーチ・チームメイトのうち1名のみが助言者としてベンチ入りできます。ただし、競技者は競技領域から離れてはいけな  
いので、同時にアドバイザーをする場合はアドバイザーが移動してください。ただし空席時に別のアドバイザーが座ることは禁止します。

## 7. 応援

ベンチでの応援は節度あるものとし、相手に不快感を与えることのないようにしてください。また、ベンチの席を立っての応援は禁止します。

## 8. アドバイス

競技者または組は、ゲームとゲームの間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間のみアドバイスを受けることができます。団体戦においては、ベンチにいることを認められた誰からでも、個人戦においては、監督・アドバイザー・チームメイトのうち1人からアドバイスを受けることができます。

## 9. タイムアウト

競技者または組は、個人戦の1マッチ（団体戦においては個々のマッチ）において、1分以内のタイムアウトを1回要求することができます。団体戦において複数台を使用する場合は、アドバイザーもタイムアウトを要求することができます。また、タイムアウトは、ゲーム中でのラリーとラリーの間でのみ要求することができます。

## 10. 促進ルール

ゲーム開始後10分経過した場合は、促進ルールが適用されます。また、両方の競技者から要請があった場合には、いつでも促進ルールが適用されます。ただし、双方の競技者の合計ポイントが18ポイント以上なら促進ルールは適用されません。

## 11. 試合開始前の練習

競技者はマッチ開始直前に2分間を限度として、そのマッチで使用するテーブルで練習できません。

## 12. サービス

サービスに関しては厳しく判定します。サービスが基本ルールの要件を満たしているかどうかを、審判員が確信できるようにサービスを行うことは、競技者の責任です。審判員が競技者のサービスの正当性に疑問を持った場合は、そのマッチの最初の発生時に直ちにプレーを中断し、サーバーにその旨注意を与えます。その後、その競技者またはダブルスのパートナーが正規のサービスかどうか明らかでないサービスを行った場合、そのサービスは不正なサービスと判定されます。なお、明らかに正規のサービスでない場合は、最初から不正なサービスと判定されます。

## 13. 抗議

審判長に抗議することができるのは、審判員のルール解釈上に関するのみに限り、事実の判定に対してはできません。個人戦での抗議は、問題が生じた場面に参加していた競技者のみ、団体戦での抗議は、問題が生じたマッチに参加していたチームの監督のみが行うことができます。